## デンマークからこんにちは！

小島ブンゴード孝子

○2

### デモクラシー

私はよくデンマークのことを「小さくて大きい国」と紹介しています。

人口は北海道より少し多く（約580万人）、本土面積は北海道の約半分という小国ですが、福祉先進国として知られ、国民1人当たりの国民総生産（GDP）は世界6位、国連が毎年発表する世界幸福度調査では世界2位と常に上位にあり、小さいながらもそれなりに頑張っているという意味で、大きい国と言っても良いかと。

この国のデモクラシーは、19世紀半ば、一滴の血も流さずに民主憲法が制定されたことから始まります（1849年）。その後ドイツ（当時プロシア）との戦いに敗れ、本土の約3分の1にあたる豊かな農地を失いましたが、その時「ひと」という資源がまだ残っていることに気づき、これを元手に国を復興させようという気運が高まりました。

ここで取り組んだこと、それは開拓と教育。農民たちは、老若男女みな力を合わせてやせた土地を開墾し、新しい農地を生み出しました。

そして農業に従事していた若者は、農閑期に全寮制の「フォルケホイスコーレ」と呼ばれるデンマーク独特の学校に集い、生活を共にしながら、生きた言葉で、歴史・文学・哲学を語り、また国の将来を考えたのです。ここで学んだ若者たちが地元に戻り、農業協同組合を組織しました。

### 小さくて大きい国

またその流れは都市部に労働組合を生み、さらに女性たちは、自らの手で全国組織を結成しました。［解決の道は話し合いで］［一人一票］［協力―連帯］［権利と義務］―デンマーク式デモクラシーは、こうして長い年月をかけて徐々に熟成していきます。

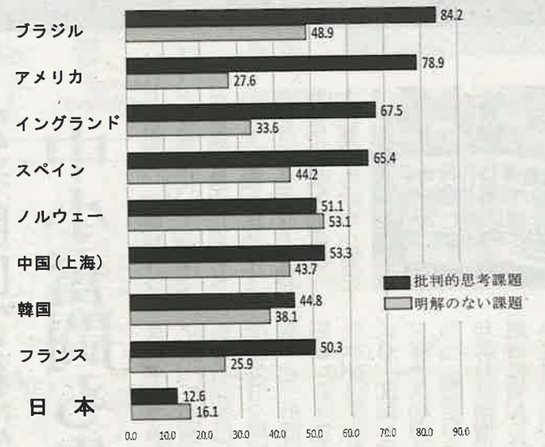
なぜデンマークは小さくても大きいのか？　そのカギは、まさに「ひと資源」。「ひと資源」を大切にし（公共医療／福祉サービスの充実）、レベルアップし（公共教育）、フル活用する（男女だれもが働く）ことが、この国のパワーになっているようです。

そしてデンマーク人は、デモクラシーは教科書ではなく、日々の生活や学校生活から学ぶものだと考えています。そう、この学びは、早くも幼児期から始まるのです。

次回は、子どもたちがどうやってデモクラシーを学んでいくか紹介します。

## 中学校の批判的思考・明解のない課題の授業

### 日本：「考える教育」は絶望的低水準



日本と世界

OECDの国際比較調査TALIS18（世界48の国・地域の教員に対する教育実践や雇用関係についての2018年の調査結果）の2回目です。

今回は、以下の指導実践を、自らの授業において「しばしば」もしくは「いつも」行っていると回答した中学校教員の割合です。

上段が「批判的に考える必要がある課題を与える」、下段が「明らかな解決法が存在しない課題を与える」です。

すなわち、「考える力をつける教育」の実践に努めている中学校教員は、日本には1割強しかいません。

## いちおし

### 祖母手製の「押しずし」

ちかごろ、祖母の「押しずし」が食べたいと思う。

塩で絞めたサバやサケを木型の底に敷き、イヤというほど酢飯を乗せて、木のフタで押し付ける。体重をかけて。

できた固まりを切り分けると完成だ。とても固く、子どもには飯の量が多い。奈良の山村で、鮮度が落ちた海の魚を美味しく食べる工夫だった。

ちなみに、押し寿司を柿の葉にくるんだのが、「柿の葉寿司」。

奈良名物の「柿の葉寿司」だが、口の悪い人に言わせると、「鯖の身ってこんなに薄く切れるのか」と感心しながら食べるのが作法だとか。

（奈良・野素足る爺）

## 発信

### 「国際婦人年」を契機に

東京・三鷹市　嶋﨑　公代

地域活動のきっかけは、国際婦人年でした。

1975年、三鷹市でも市内の女性団体代表による婦人行動計画策定委員会が作られ、当時の革新市長からの呼びかけで、三鷹市職労青年女性部として参加することになったのが始まりです。

その後、委員会を母体とした「福祉を語る婦人の会」（現「三鷹市の福祉をすすめる女性の会」）の事務局を手伝うようになり、現在に至っています。

当時は福祉政策も充実していない時代で、母子家庭、障がい者（児）、医療費の助成問題等、市民からの課題を市政に反映させるために市長交渉するなどの活動が主でした。

現在は、居場所づくりとして、おしゃべり広場、コーラス、介護、美容コーナーなど開設し、市の平和事業や介護教室開催などに協力しています。

**地域での活動**
居場所づくり
生理の貧困
フードバンク
など取り組む

「生理の貧困」問題では、公的施設の女子トイレに無償設置を要望し、生理用品を集めて配布する活動を今年から始めました。

フードバンク活動では、フードロスの削減、食のセーフティネット作りをめざして国や企業、個人から寄付を受け、食の支援を必要とする世帯、子ども食堂、福祉施設、多世代交流会などへ提供しています。

こうした活動を通じて、見えない貧困やゴミ問題、労働問題など、憲法25条と13条が保証されていない現実が見えてきます。

## 講演会　集会　行動　インフォメーション

**■4月23日（土）「憲法9条の会・関西」学習会「身近に迫る改憲の危険性」** 14時～　難波市民学習センター　第1研修室（JR難波駅直結）　講師＝島本慈子さん（ノンフィクションライター）参加費800円（学生500円）。主催＝憲法9条の会・関西　https://9.jo-kansai.jimdofree.com

**■4月24日（日）【文京上映会】憲法を武器として60年目の東京** 14時～　文京区民センター3A会議室（地下鉄春日駅2分）

「恵庭事件」が起きて60年経った。なぜ酪農家の兄弟は通信線を切ったのか？　自衛隊違憲の判決はなぜ出なかったのか？　改憲の動きが止まらない今、改めて「恵庭事件」を考えよう　参加費　一般1000円　学生500円。

**■4月27日（水）【新ちょぼゼミ】オルタナティブな日本をめざして「生命操作時代の科学・技術、社会」** 18時～20時　スペースたんぽぽ（JR水道橋駅5分）　講師＝上林茂暢さん（柳原病院在宅診療部、ゲノム問題検討会議賛同人）参加費・資料代含む800円（学生400円）。予約☎03（3238）9035

**■4月30日（土）～アイヌ民族の知られざる祭祀を映すドキュメンタリー映画「チロンヌプカムイイオマンテ」**（2021年製作／105分）監督＝北村皆雄、監修＝中川裕

まぼろしの祭祀を映した映像が35年ぶりによみがえる。　上映＝東京・ポレポレ東中野　5月中旬まで

**申込制　たんぽぽ舎特別企画　鎌田慧さんとの対話シリーズ第1回**

鴨下全生さん「ぶっつけ本番！未来に向けて真実を！」14時～　日比谷図書文化館コンベンションホール（地下鉄内幸町駅2分）ゲスト＝鴨下全生さん（3・11東電原発事故被災当時小学生・現在大学生）参加費一般800円（ユース割引検討）。定員207座席の半分　予約・＝たんぽぽ舎☎03（3238）9035